

授業概要

この授業は、保育の質を健康教育学の観点から考究するものです。乳幼児期に多くの時間を割きますが、広く胎児期から学齢期にかけての、子どもの育ちの概論や健康教育学の諸問題を、theory, evidence, experiences, case-study, etc. から眺め、援助の心もちについて検討を加えてゆきます。

また、この授業では、「3年間の保育記録（岩波映像）」を視聴します。子どもは遊びの中で、手指や身体の機能をしなやかに発達させるだけでなく、皆でより楽しく遊ぶ方法を工夫する力や、想像力、創造力、思考力、自制心、忍耐力、粘り強さ等をも発達させますが（こうしたことは古くから言われてきましたが、近年では non-cognitive abilities/skills（非認知的能力、社会情動的スキル等と訳される）という言葉で総称され、研究・議論が盛んにおこなわれています）、その具象を実際の映像を通じて観察します。

世界最高水準の小児医療・保健環境の中で生まれ育つ日本の子どもたちを、どうか良い形で学校保健・安全領域につなげてほしい、と願いながら授業を担当しています。受講を通じ、子どもの育ちを見つめる確かな眼が涵養され、目線の高い保育者・教育者を目指す一助となれば幸いです。

授業計画

第1回	ガイダンス：Starting Strong（人生の始まりこそ力強く）
第2回	日本の小児医療・保健環境
第3回	現代社会と子どもの健康（健康のとらえ方、影響要因、健康生成論）
第4回	現代社会と子どもの健康（健康課題の時代推移、運動・スポーツと身体の高二極化）
第5回	心を育む（認知：発達脳科学、子ども学の知見から）
第6回	心を育む（情動と気質、情緒の発達、情緒と社会性との関連）
第7回	心を育む（気になる子ども、家庭への理解と対応）
第8回	心を育む（もしもの時の心のケア）
第9回	遊びの理解（遊びの意義と性格、遊びの発達、見守る側の心もち）
第10回	遊びの理解（非認知的能力と健康3要因やライフスキルとの関係）
第11回	レポート作成 ※ 試験答案の方向性を練る時間に充てる。
第12回	レポートの返却と省察
第13回	生活習慣の獲得過程と援助
第14回	食育 ※ 公開授業は「食育」をとりあげる。
第15回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、の中での健康・安全のあつかい（平成30年度～）
第16回	試験

到達目標

- 下記の理解を深めること。
- ・先ずは表情豊かに子どもの心を受けとめること、そして、吟味された遊びの環境を用意すること。これらのが、子どもの身体的、精神的、社会的な健康を育む上での土台となる。
 - ・幼児期のスキル形成はその後の人的資本形成の基礎をつくる。学びは更なる学びへとつながる。幼児期への投資は重要である。（2点目はHeckman and Masterov, 2007. より。Heckman: ノーベル経済学賞受賞者）

履修上の注意

特にありません。

予習・復習

到達目標を念頭に参加（メモ、思考、議論）し、実践に生かすこと。予習は必要ありません。

評価方法

受講態度（20%）、授業内レポート（20%）、学期末試験（60%）で評価します。
 ※ 配点比率は目安であり、実際には3点のバランスを見て、良い所を積極的に評価しています。

テキスト

全てこちらで用意します。